

2011.12.28 「政党とマスコミの幼児化が国を滅ぼす」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は 12 月 28 日です。本日の新聞を見ていると、民主党の中で消費増税に関する政調の会議がなかなかまとまらず、逆にそのことを受けて 10 人近くの人がこの年末にも民主党を離党するということが書かれていました。まさに民主党政権、野田政権の混迷ぶりここに極まれりという形であります。

しかし、私はこういう報道をみていまして、何か腑に落ちないというか、肝心なことがまったく書かれていないな、と思うのです。といいますのは、民主党政権は例の八ツ場ダム問題で、前原氏が八ツ場ダムはマニフェスト違反だから中止をしておかなければならないということを主張していたということがありました。前原さんがそのようなことを国交大臣の時に決めたのですけれども、実はそのあと八ツ場ダム以外で関東地域の治水が出来るのかということとを民主党政権の中で調べましたが、結局はダム以外に治水を効率的にする方法はなく、ダムを造るのが一番効率的なのだという結論がでたわけです。そこで、この八ツ場ダムは再開されることになったのですが、前原さんはそれが納得できないということで、抵抗していました。しかし与党が決めたことは反対だが賛成をすると、まさにまあ天才バカボンのパパじゃありませんが、「反対の賛成」といっているわけなのです。

これもマニフェスト違反であり、これを放置してはいけないという理由で民

主党を離党する方がいるという話であります。

要は、問題は民主党がマニフェスト違反をしたことは当然として問題であります。ですからマニフェスト違反をしないようにマニフェストを守れというのも、それはそれなりに筋があるようですが、一番間違っているのはそういうことではないのです。根本的な間違いというのは、始めからマニフェストそのものに出鱈目を書いてあったではないかということです。特に八ツ場ダムはその典型なのです。彼らが政権を取る前に八ツ場ダムは無くても良いと主張し、消費税を上げなくても無駄をなくせば財源はいくらでも出てくるし、ガソリン税すら特別税率を廃止することが出来るのだ、とこういうことを彼らは言っていたわけです。ところが、政権をとったら全く出来なかった。そのこと自体が公約違反、マニフェスト違反ですが、そのマニフェスト違反が問題というよりも、まさにそんな出鱈目をどうして彼らが公約として、マニフェストとして掲げたのかというのが一番問題なのです。

ところがそのことについて全くマスコミなども追求していないわけです。社説を見てもテレビのコメンテーターを見ても、マニフェスト違反の問題については言っています、しかし、最初から出来もしない政策を並べたマニフェストについては誰も追求しないのです。そしてこのことを追求しないマスコミ自体にも責任があります。このマニフェストの問題は、彼らが野党の時に掲げていた時から出来ないことは始めからわかっていたわけです。そして、そのところ

を初めからマスコミが追及せず、逆に我々が与党の時にそのことを野党の民主党に追及をしたわけです。彼らがガソリン税特別税率を廃止するというから、一体どうやってその財源が捻出できるのか、とこういうことも言ってきました。ところがまともに彼らは答えられませんでした。しかし、そのことをマスコミはきちんと報道しませんでした。ですから彼らの言いつばなしのマニフェストが、あたかも政権公約のように用いられ、この宣伝がマスコミを通じてなされ、結局は国民が誤った判断をしたのです。ですから、今回の民主党の公約違反、マニフェスト違反の責任の半分以上はマスコミにあると思っています。そのマスコミが今度は、民主党はマニフェスト違反だと批判するけれども、彼らに批判する権利などありません。むしろ民主党と一緒にやってマニフェストを喧伝していたのはマスコミ自身であります。そして、このことを反省しない限り、政治の中での言論、言葉による議論、こういうものが成り立たないということなのです。今も民主党のこの混乱ぶりが報じられていますが、そのことが全く言及されておりません。そして民主党の中にはマニフェスト違反をするのはけしからんと言ってやめる人間、そしてさらに野田さんのように、マニフェスト違反だけでも現実的に仕方がないのだといって開き直る人間ばかりです。どちらもなぜこのマニフェストという名前の出鱈目を、党の政策として決められたのかという、根本的な反省をしていないのです。このことについて、民主党内でも言及されていませんし、マスコミも追求していません。まさにここに問題

があるのです。要するに、幼児現象と言わざるを得ないと思います。つまり子どもが思いつきであれやこれやと大人に理屈を言う、大人が、そんなことは通らないよと言っても、いや、僕達なら出来るのだとダダをこねているのと同じ構造なのです。我々自民党は政権政党であり、また大人の常識としてそのようなマニフェストは不可能だと忠告してきたわけです。しかし、本来なら第三者的に政策を評価して論評すべき知識人なりマスコミなりが子どもと一緒に煽りたてたことがマニフェスト違反の基になり、前回のマニフェスト選挙の一番の原因となったのです。そして、今の問題点は、そういう風に煽りたてた人間も、また、マニフェストを書いて出来ますと言った民主党も結局自分たちの一番の問題点が何かということが何一つ総括出来ていないということです。

このままの状態では、当然マニフェストは間違っておりますから修正するのは当たり前です、しかし、この責任の所在がどこにあるかということを彼らは一切わかっていないようです。ですから、例えば民主党が消費税について議論を行い、今までやらないと言ってきたものをやります、だから自民党のみなさんも協力してくださいと言っても、何一つ議論が出来ないのです。なぜなら、今彼らは正しいことを言ってきたように言っているけれども、元々なぜそういった間違いを言えてきたのか、そのところの反省がなければ、議論にならないということだからです。ですから、まずは民主党の中で年内にまとめるという話自体もまとまらないでしょう。そして、民主党自身が年明け早々、政府の体

をなさない状態になると思います。従いまして、年明け早々選挙が行われる可能性が高いですが、その選挙をするにしても政策の議論をするにしても議論にならないということです。そして、彼らと目先の消費税をどれだけ上げるべきかという話をしても意味がないのです。それよりも、なぜそのような今まで出鱈目を言ってきたのかということの反省がなければ、次、明日、将来に向かって政策の積み上げをすること自体が虚しく、このことをマスコミが第三者として報じて頂けなければ議論自体が出来ないのです。

ようやく今年も年末になりましたが、私自身、民主党政権の出鱈目さと、それを幫助してきたマスコミの出鱈目さを強く思うようになりました。

年明けはこのようなことを含めて、政治の一新を図らなければなりません。

しかし、問題は民主党には政党としての資格がなく、マスコミにも第三者として報道する自覚ありません。このような状況ですと、我々一人ひとりがビデオレターを通して直接国民の皆様にお伝えし、皆様方に広めて頂くほかないのです。そして私自身、来年もこのような立場で皆様方に丁寧に問題の本質を訴えていきたいと思います。

今年一年、大変お世話になりました。来年もよろしく願い申しあげまして本年の最後のビデオレターとさせていただきます。

ありがとうございました。